

学校法人 コミュニケーションアート OCA大阪デザイン&テクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和6年7月5日実施】

令和5年度自己点検自己評価(令和5年4月1日～令和6年3月31日)による

学校関係者評価委員氏名【 】

大項目	点検・評価項目	自己評価		点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1		
1 教育理念・目的・育人人材像	1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか	3		<p>学校法人コミュニケーションアート OCA大阪デザイン&テクノロジー専門学校は、学校法人滋慶学園グループに属し、「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことをミッション(使命)としている。</p> <p>「3つの教育理念」「実学教育」「人間教育」「国際教育」を実践し「4つの信頼」(①業界の信頼 ②高校の先生の信頼 ③学生と保護者の信頼 ④地域の信頼)を得られるように学校運営をしている。</p> <p>教育理念に基づき、OCA大阪デザイン&テクノロジー専門学校は、『人に喜びや感動を与えられる「即戦力」となるクリエイティブ・IT業界の人材育成』を目的として学校運営をしている。</p> <p>現在、クリエイティブ・IT業界を取り巻く社会環境は大きく変化している。職業の現場で求められる知識・技術の高度化や、より付加価値の高い人材の必要性を背景に、本校では、将来的にも、3年制課程と『産学連携教育システム』により、様々な変化にも対応できる人材の育成を実現していく。</p>	<p>「学校法人滋慶学園グループ」昭和51年の創立以来、「職業人教育を通して社会に貢献する」ことをミッションに掲げ、全国に専門学校・教育機関を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、建学時から変わらない「3つの教育理念」(実学教育、人間教育、国際教育)と「4つの信頼」(業界からの信頼、高校の先生からの信頼、学生・保護者からの信頼、地域からの信頼)を実践することで、理想の教育実現を目指す。医療・福祉・美容・調理・製菓・バイオ・スポーツ・IT・クリエイティブ・エコ・音楽・ダンス等、多岐にわたる分野で北海道から福岡、NYまで82校を有する。</p> <p>「実学教育」スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識技術を実践的に教授する。一人一人の個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築された『滋慶学園グループ独自の教育システム』。特に、業界と共に業界に必要な人材を育成する「産学連携教育」を教育の柱として、即戦力人材の育成を行っている。</p> <p>「人間教育」開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル等を身につけ、同時にプロ・社会人としての身構え・気構え・心構えを養成する。</p> <p>「国際教育」コミュニケーション言語としての英語を身につけるだけでなく、日本人としてのアイデンティティを確立した上で、広い視野でモノを捉える国際的感性を養う。またコロナ禍において海外実学研修は実施できなかったが、海外からのオンライン授業などを通じ、グローバルに学ぶ機会を設けている。</p>	3		<p>ともしっかりとした理念をお持ちだと感じています。何度か講義を持たせていただきましたが、昨今の「人見知り」「無関心」の学生が多い中、貴校の学生には積極性を感じています。これも貴校の教育理念のなせる業だと感じています。門性を高めるだけでなく、社会人として必要な人間性や、国際的な考えなどを就学中に学べることは素晴らしと感じました。企業に求める即戦力の育成の為に4年制導入注力は良いと思います。現実的に難しいが3年制という特色も残せればと感じました。ネット社会になり、挨拶もままならない人々が多いので人間教育は大変評価出来ます。</p>
	1-2 学校の特色は何か							
	1-3 学校の将来構想を抱いているか							
2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか	3		<p>諸環境の変化に対応できるように、運営方針を事業計画にまとめている。滋慶学園グループとしては、毎年、長期・中期・短期展望をし、事業計画を作成している。それを受けて、滋慶学園COMグループが短期事業計画を作成するが、そのもとになるのが、滋慶学園COMグループに属する各学校が作成する短期事業計画であり、毎年作成しているこの事業計画書が各学校における運営の核となるものである。事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決議を受け、承認を得ることになっている。それを受け、各学校では毎年数回、勉強会として、事業計画に基づく、学園および学校の方針について、全教職員へ周知徹底するための研修を行っている。</p> <p>事業計画においては、グループ全体と本校の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等々についてが明確に示されている。運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われる。事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。</p> <p>学校が重要視していることとして、滋慶学園グループの中期・短期の事業計画に沿って、採用と人材育成を行い、様々な研修において目標達成に向け、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また関わるすべての人が学校の方向性、学校の方針の実現に向けて同じ方向を向くために、各種研修や会議、ミーティングにより、コミュニケーションの重要性を確認している。</p> <p>また、滋慶学園グループ共通システムである専門学校基幹業務システム(ASシステム)により管理・運営している。学生情報や総務管理、財務情報などの管理を行っている。</p>	3		<p>ご説明をいただき、貴校の高い視点に感銘を受けました。グループの運営方針と事業計画策定のプロセスは、計画的かつ実効性の高いものであり、組織全体の目標達成と持続可能な成長に寄与していると感じました。特に、全員が同じ方向を向き、取り組むための研修やコミュニケーションの強化、効率的なシステム管理など、細部にわたる配慮が見受けられ、今後もこの体制を維持しつつ、さらに改善を図ることで、さらなる発展を期待します。</p>	
	2-5 事業計画は定められているか							
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか							
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか							
	2-8 意思決定システムは確立されているか							
	2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか							

3 教育活動	3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	3	職業教育は常に業界と密接な関連を持たなければ、教育目標、育成人材像は正しく方向づけられないと考えており、業界の動向を常にキャッチし、その変化に対応して養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。	本校は、1988年の開校以来、教職員の目標として、 1. 専門就職希望者全員就職 2. 退学率 0%（入学者は全員卒業してもらう） を掲げ、その達成のために構築した2つの重要なシステムを構築している。 第1のシステムは入学前の自己発見→自己変革→自己確立という、自己3段階教育と、動機づけ・目的意識づけプログラムである。入学前からの一貫した育成システムと目的意識をもって取り組むプログラムの組み合わせにより、モチベーション向上を果たしている。 第2のシステムは、即戦力としての実践的技術・知識、ビジネスマインド等を身につけるための教育システム「産学連携教育システム」である。これには、次の6つが挙げられる。 ①企業プロジェクト ②現役クリエイター・エンジニア講師陣 ③業界研修 ④海外実学研修⑤特別ゼミ ⑥ダブルメジャーカリキュラム ⑦キャリアセンター・デビュー事務局 である。 海外実学研修については、2023年度実施。また米国UWF校との提携授業や海外の業界TOPクリエイター・エンジニアより教えを受けるプログラムなどを通じ、国内にいながら、最先端を学ぶ機会を担保している。	3	実際に業務についた後には「専門的な知識」はもちろん必須ですが、それに追加して「異業種文化や一般教養から得た世界観」を持つことが重要になってくると思います。つまり「クライアントのニーズを満たす＝及第点のクリエイター」から「クライアントの想像力を更に広げる提案ができる＝超一流のクリエイター」への昇華です。 これまでに2回、卒業制作発表会を見せていただきましたが、貴校および関連校には実に多彩な選考コースがあることに驚かされました。こういう環境で学ぶ学生には、是非、他の選考コースの方々との（遊びも含めた）交流を行っていただき、「より広い世界観を持ったクリエイター」を目指していただきたいと思います。（既に他コース学生の交流は行われているとは思いますが） 職業教育システムは非常に充実しており、業界の動向を敏感にキャッチし、柔軟に対応することで、即戦力となる人材を育成するための環境を整えていると思いました。 4年制ではスキル、コミュニケーション力、チーム力の向上や専門外の経験を行うことで想像力、世界観を拡げる教科は社会での応用力にもなるので良いと思いました。 各研修、体験をオンライン等で行う、校内研修の機会も増やしている事も評価で大きいです。
	3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか					
	3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか					
	3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか					
	3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか					
	3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか					
	3-16-1 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか					
	3-16-2 教員の専門性を向上させる研修を行っているか					
	3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか					
3-18 資格取得の指導体制はあるか						
4 教育成果	4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3	教育成果は目標達成の努力の結果であるが、本校では、専門就職 希望者全員就職、退学者0名を教育成果の最終目標に学校運営を行っている。 就職では、開校以来、就職希望者全員就職を達成しているが、専門就職率の向上も課題として取り組んでいる。コロナ禍において、卒業時点では就職100%の達成には至っていないが、卒業後も継続した支援を行い、全員就職達成を目指す。資格取得については、特別授業やクラス別の対策講座などを実施し、特にIT分野での成果につながっている。 退学率では、開校以来、様々な取り組みの努力を重ねた結果、2022年度の3.4%から2023年度は3.7%(全体退学率)とほぼ変化なく推移した。今後も学生個々の徹底したフォロー、カリキュラムの工夫、担任・副担任制度の強化、学生カウンセリングの強化等々を実施し、退学率0%達成に向け、努力を継続していく。 また、精神面サポートとしてのカウンセラー(SSC)との連携を密に行い、学生の学びのサポートのみならず、心身のサポートを実施している。 在校生と卒業生のデビュー実績やコンテストへの入賞、商品化や参加作品などについては、担任との面談をはじめ、同窓会の開催や卒業生のネットワークを活用して把握に努めている。	3	退学率が3.7%と全国平均を下回っており、大変評価できるものであります。できれば、退学率0%、就職率100%をめざして取組を進めていただければと思います。 退学率の低さを見ても、貴校の「各学生ごとへの細かい対応」が功を奏していることが判ります。大変すばらしいことだと思います。 蛇足ではございますが、私どもJNCAでは、クリエイターの皆様の税務や国保に関するサポート、著作権侵害などの支援や行政団体への提案などを行っており、これらを充実させることも我が国の創作文化の向上につながるかと信じています。是非、貴校との連動により、これらの活動を強化していきたいと考えております。 専門就職率の向上や退学率の低減に向けた具体的かつ継続的な取り組みの結果として現れており、学生の学びと心身の両面をサポートする総合的な教育体制が確立されていると思います。 今後も、学生が安心して学び、将来に向けた力をつけることができる環境が整うことを期待します。 就職率90%以上は素晴らしいと思います。又、退学率のひくさも良いと思います。 退学理由の事で質問させて頂きましたが、保護者の方とのフォローも出来ているとの事で評価します。	
	4-20 資格取得率の向上が図られているか					
	4-21 退学率の低減が図られているか					
	4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか					

<p>5 学生支援</p>	<p>5-23 就職に関する体制は整備されているか</p> <p>5-24 学生相談に関する体制は整備されているか</p> <p>5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか</p> <p>5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか</p> <p>5-29 保護者と適切に連携しているか</p> <p>5-30 卒業生への支援体制はあるか</p>	<p>3</p>	<p>本校では、学生が目標を達成できるように、物心両面の環境を整備していくことで支援に繋がると考える。</p> <p>しかし、支援はあくまでも支援である。例えば、健康の維持は学業目標達成には欠かせない事項であり、本校でも健康診断にとどまらず、多くの支援体制を築き上げているが、学生本人が健康管理についての自覚を持たない場合、支援は効果がない。</p> <p>それゆえ、学生支援はまず学生の自立的行動を促すことから始めている。またキャリア教育・生涯教育の観点から卒業後の支援についても、継続している。</p> <p>学生支援には、①就職 ②学費 ③学生生活 ④健康 などの分野で行っているが、それぞれの分野で対応できる担当部署及び担当者を置いている。</p> <p>①就職については、専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との強い連携をとりながら、就職の相談、斡旋、面接他各種指導などの支援をしている。また、保護者会を開催するなど、随時、保護者とも連携し、必要な支援を実行している。</p> <p>②学費については、相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。</p> <p>③学生生活については、担任及び副担任制により行うが、それ以外にもSSC(チューデント・サービス・センター)という悩みや相談を受ける専門部署を置き、支援している。</p> <p>④健康については、滋慶学園グループのクリニックである慶生会クリニック大阪が担当し、在学中の健康管理を支援している。</p> <p>また、学生の課外活動であるサークル・同好会について、学校が年間予算を計上し、担当者を配置して、支援し、学生満足度アップに貢献している。</p> <p>学生寮も学園の専用の寮を整備しており、寮長と担任とが連携して学生を支援している。</p>	<p>滋慶学園グループでは、「ひとり一人を大切に」というコンセプトがあるが、本校でもこのコンセプト通り、学生を第一に考え、様々な支援体制を整備している。</p> <p>その中でも、「就職」は学生が目標を達成し、業界で活躍するための最重要事項であり、本校では非常に力を入れており、キャリアセンターという専門部署を置き、専任のスタッフを配置している。</p> <p>キャリアセンターは、業界現場での実践研修である「業界研修・インターンシップ」の指導から、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント開催、就職斡旋等々、さらに履歴書添削、面接練習、スーツ着こなし講座、メイク講座など就職に関するあらゆる支援を行っている。デビューを希望するには、デビューセンターのスタッフが作品添削会、編集部への持ち込みツアーなど、デビューのチャンスを提供している。また卒業後もデビューバンクに登録し、さらに添削会への参加の案内など、卒業生のサポートも継続している。</p> <p>また、求人情報等を学生が自宅のパソコンでも閲覧できる就職支援システム「サクセスナビ」、一斉メールなどシステムの構築をし、迅速な対応ができるように支援している。</p> <p>このような支援体制の結果、就職希望者は全員就職を達成している。「就職」と並ぶ重要項目である、「教育」については、教育環境を整備し、成果を上げている。</p> <p>即戦力の人材を育成するための施設・設備、機材等々を完備し、また業界ニーズとブレのないカリキュラムの構築、業界第一線で活躍する講師陣による授業など、オンリーワンを目指す学校として十二分な体制を確立している。</p> <p>生活面でのサポートについては、年間通じた学生面談、保護者や出身校の先生との連携などを通じ、カウンセラーとの連携を円滑に行っている。</p>	<p>3</p>	<p>ひとり一人を大切にというコンセプトを引き続き大事にしなが、学生を支援してもらいたいと思います。</p> <p>貴校の多方面にわたるお取組みは素晴らしいと感じております。</p> <p>学生が自立的に目標を達成できるよう、多岐にわたる支援体制を整え、その実現に向けて包括的なアプローチを取っている点で非常に評価できます。</p> <p>各フォロー体制も素晴らしく思いました。</p> <p>卒業生支援に関してもOCAを通してグループ校より支援出来ると聞いたので安心な体制で評価します。</p>
<p>6 教育環境</p>	<p>6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</p> <p>6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</p> <p>6-33 防災に対する体制は整備されているか</p>	<p>3</p>	<p>本校は、業界で即戦力となり得る人材育成を目的としており、そのための教育環境(施設・設備、機材等)の整備は重要であるが、完備されていると考える。一昨年末より改装を行い、学生が学ぶ環境や生活の環境の向上を図っている。</p> <p>機材についても、学内に880台にも及ぶPCを用意しており、サポートが経過した機材は買い替える、VRなどの最新機材についても常に導入し、さらに教育環境の充実が図られた。</p> <p>学内の教育環境に留まらず、学外の環境(インターンシップ・業界研修、学外演習、海外実学研修)も十二分に整備することが必要であるが、キャリアセンター、教務部、国際部が一丸となって、その整備を行い、教育効果につなげている。</p> <p>防災訓練・避難訓練も計画的に実施しており、安全対策を日ごろから啓蒙している。</p>	<p>オンリーワンを目指す本校にとって、教育環境である施設・設備・機材等は非常に重要な要素であり、業界において最新・最良のものを整備している。</p> <p>海外研修については2023年度実施し、アメリカの企業・施設を訪問、TOP海外クリエイターからの講演なども行った。また、国際教育の一環として、海外クリエイターによるゼミや海外企業との企業プロジェクトなど、グローバルな視点を育成できるカリキュラムを実施した。</p> <p>毎年、事業計画で計画し、予算計上の上、計画通りに購入・更新等を行っているが、これ以外の学外教育環境も教務部、キャリアセンター、国際部が一丸となって整備しており、これは本校の大きな強みと考えている</p> <p>防災について、地震等の災害の際に学生の安否を確認するシステムがあり、万一の災害に備えている。</p> <p>校内とエントランスに防災、防犯カメラを3台から16台に増設し、2F教務室と1F事務局から、各フロアを確認することができるようになった。</p>	<p>3</p>	<p>今年には能登半島地震があった年であり、防災意識は大事であります。特に公社がビルなので、防災訓練は大事であると思います。</p> <p>貴校の多方面にわたるお取組みは素晴らしいと感じております。</p> <p>即戦力となる人材育成に向けた取り組みが多角的に行われており、学内外の環境が充実しています。</p> <p>最新の設備や機材の導入に加え、実践的な学外研修の機会が豊富であるため、学生は実践的なスキルを身につけ、業界での即戦力として活躍できる準備が整えられていると思います。</p> <p>また、安全対策の徹底により、安心して学べる環境が整っている点も高く評価できました。</p> <p>国内の学外研修にて沖縄での計画予定が3月にあるという事で実現出来る様、願います。</p> <p>防災訓練に関しては生徒の方でも数名は消火器訓練等を行った方が良いのではないかと思います。</p> <p>展示会の事にて意見させて頂いた件に対し、会議にて提案して頂けるのと事で宜しくお願い致します。</p>

<p>7 学生の募集と受け入れ</p>	<p>7-34 学生募集活動は、適正に行われているか</p> <p>7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</p> <p>7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか</p> <p>7-37 学納金は妥当なものとなっているか</p>	<p>3</p>	<p>本校は、大阪府専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO 入学等も)を遵守している。また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学校募集ができるように配慮している。</p> <p>さらに、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して、学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。これらすべての広報活動等において収集した個人情報・出願・新入生の個人情報等本校に関わるものの個人情報は、校内に個人情報保護委員会を設置し、厳重に管理し、流出及び他目的に使用しないように、管理の徹底を図っている。</p> <p>入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しているが、入学選考後は、「入学選考会議」により、可否を決定する。なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り、「面接選考」及び「書類選考」であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。</p> <p>将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりしているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するもので、入学試験という名称のもと、学科試験を行うものではない。学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。</p> <p>保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中で追加徴収を行わない。</p>	<p>学生募集については、募集開始時期、募集内容等々ルールを遵守し、また、過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。</p> <p>広報活動では「学校の特色を理解してもらう」ことを強化している。</p> <p>本校は専門就職を果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前に職業イメージがどれだけ明確になっているかが大切と考え、体験入学や説明会への複数回参加を促し、充分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。</p> <p>教育成果として、高い専門就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化しており、学生募集上の効果はかなり高いと考えるが、それゆえ、過大な広告にならないよう、学内に広告倫理委員会を設置し、事務局長、広報スタッフ等が常にチェックしている。</p> <p>本校は、一般社団法人日本プライバシー認証機構「TRUSTe」の国際規程の認証を受けている。</p>	<p>3</p>	<p>充分にご対応できていると感じました。</p> <p>透明性と倫理性を重視し、適切な広報活動と厳格な個人情報管理を徹底している点で非常に評価できます。</p> <p>広報活動もルール通り行い、2024年度増加し、2025年度も前年度を上回る予想という事なので、広報努力が素晴らしいと思いました。</p>
<p>8 財務</p>	<p>8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</p> <p>8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</p> <p>8-40 財務について会計監査が適正に行われているか</p> <p>8-41 財務情報公開の体制整備はできているか</p>	<p>3</p>	<p>財務は、学校運営に関して、重要な要素の一つである。</p> <p>その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。</p> <p>毎年、次年度事業計画を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのが目的である。</p> <p>5ヶ年の予算は、5ヶ年を見越した中長期的事業計画内で、新学科構想、設備支出等について計画し、将来の学生数、広報・就職計画を鑑みながら予測し、収支計画を作成するが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするため、より現実に対応した予算編成となっており、健全な学校運営ができていると考えている。</p> <p>会計監査は、法人及び学校の利害関係者に対して、法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために、第三者による監査人が法人とは独立し計算書類が適切かどうかを監査することを意味する。</p> <p>平成17年4月から私立学校法が改正され、学校法人の財務情報公開が義務づけられたが、これに迅速に取り組み、「財務情報公開規程」及び情報公開マニュアルを作成し、財務情報を公開している。</p>	<p>予算を正確かつ実現可能なものにするための2つの要素がある。</p> <p>①正確かつ実現可能な予算の作成 予算は短期的、中長期的の2種類がある。短期的は次期1年間のもの、中長期的は2～5年間のものである。 当学校法人及び学校では、短期的と中長期的の両方を事業計画書として作成し、短期的視野と中長期的視野の2つの観点から予算編成している。 短期的な予算編成は当年度の実績を基礎に次年度に予定している業務計画を加味して行われる。 中長期的な予算編成は主として大規模な計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行われる。 正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算が現実のものと乖離した場合はそれを修正する必要がある。そのために短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成しなおすことにしている。 これにより、短期的にも中長期的にも正確かつ実現可能な予算編成を組むことができる。</p> <p>②①のための体制作り ①のように実現可能な予算作成するためには、その体制作りが必要になる。 事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、滋慶学園本部がチェックし、修正して最終的に理事会・評議員会が承認する体制を整えている。</p> <p>さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者が予算と実績が乖離しているようであれば修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。作成した決算書・事業報告書については、情報公開の対象となり、利害関係者の閲覧に供している。</p>	<p>3</p>	<p>充分にご対応できていると感じました。</p> <p>予算策定から会計監査、そして財務情報の公開まで、法的要件を遵守しつつ、財政的な健全性と透明性を重視した運営を行っており、将来の成長に向けた計画立案と、それを支える財務管理の実践において、評価を感じました。</p>

9 法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。 法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。 現状では、学校運営(学科運営)が適切かどうかはつぎの各調査等においてチェックできるようにしている。 ①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基礎調査 ④専修学校各種学校調査 等である。	<法令順守に係る組織体制・システム> ◎組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ)	3	充分にご対応できていると感じました。 全体が法令遵守を重視し、それを教職員全員が共有し実行する姿勢を持っていることが明確 また、特に法人理事会の下で運営されるコンプライアンス委員会が、学校運営の適切性を定期的に評価している点が素晴らしいと感じました。 コンプライアンス遵守は評価(委員会等)。また、お話であったハラスメント対策にも注力されている。
	9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか		また、組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。 (A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ) (B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ)	◎システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ)		
	9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか		①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ)	学内にコンプライアンス委員会を設置し、厳格なコンプライアンスの遵守に努めている。 委員長は、統括責任者である法人の常務理事が就任し、委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。		
	9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか		滋慶学園グループ、COMグループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健在な学校(学科)運営ができるようにしている。 法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。 また、自己点検・自己評価の結果についても公開をしている。	主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発防止対策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のための啓発活動の推進である。 監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている		
10 社会貢献	10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	本校には、滋慶学園グループの「4つの信頼」(①業界からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③学生・保護者からの信頼 ④地域からの信頼)というコンセプトがある。 この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。 例えば、業界企業や団体、あるいは中学校・高等学校等の教育機関とタイアップして行う、出張授業支援やクラブ活動支援、また、スタッフが高校へ出向いて行う特別講義等では、「高等学校からの信頼」に繋がっている。 滋慶学園グループが従来より「地球温暖化防止対策」運動を推進している。節電、冷房温度28度設定、階段利用(2アップ3ダウン)や、イベント等におけるゴミ削減、資源有効利用等々を実施している。また、行政との連携により、教室の開放による地域や小中高へのサポートや地域貢献、社団法人やNPO法人等の社会性の高い各種団体と連携し、広報周知活動に貢献するなど行っている。 ボランティア活動についても奨励しており、学生便覧にも規定している。 特別なことをするわけではなく、滋慶学園グループが掲げる「4つの信頼」の獲得を目指すことが、すなわち社会貢献を果たすことに繋がっていると考えている。	本校では、教職員及び学生たちが、常に社会貢献を意識した活動を行っている。例えば、①大阪府・市からの企業プロジェクト ②大阪市西区との企業プロジェクト ③業界企業とタイアップして行う全国企業プロジェクト ④中学校の職業理解支援等々、年間を通じ、教職員や各専攻の学生たちが、それぞれ特徴を活かし、幅広く、かつ意義のある活動を行っている。 その活動が、「業界からの信頼」、「地域からの信頼」、「高等学校からの信頼」、「学生・保護者からの信頼」という、滋慶学園グループの「4つの信頼」獲得に繋がりと、その結果が社会貢献を果たすことに繋がっている。 今後は、学校の施設や教育ノウハウ等を更に活かし、多様な社会貢献へ発展させていく。昨年については、大阪市西区 公式YouTube映像制作や大阪教育委員会 小中学校生向けe-sportsを通して学校生活を豊かにする企画提案、動物愛護協会のポスター制作など、数々の貢献を実施。今年も昨年に続き、学園祭の収益を地域に寄付するなども行っている。	2.8	大阪市西区と連携した様々な取組は、社会貢献として十分な活動であり、今後も、学校の教育資源や施設を活用した社会貢献の実施に期待します。 貴校における産学共同プロジェクトの実施や、地域連動型のコンテンツ制作など、とても感銘を受けております。 掲げる「4つの信頼」を獲得することを通じて、社会貢献を果たすという考え方は、非常に重要であり具体的な行動だと思います。 社会貢献についても生徒、学園と協力し行っている映像も観させていただきましたので評価します。 ボランティア、としては色々取り組みをされていると思います。とはいえ今の学生は小学校から探究や総合などで、SDGsを学んできた世代でもあると思います。企業としてもSDGsやサステナビリティの取組みの必要性が顕著になってきていることを考えると、学びや行事にもう少し要素として付け加えてもいいのでは？と思いました。よろしくお願ひします。
	10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか					